

「たまあじさいの会」は、先月28日、金沢大学宮本憲一賞を受賞する栄誉に与りました。宮本先生は四日市公害を1961年に初めて告発した環境経済学と財政学の学者です。「公害」は宮本先生の発案・造語のようです。たまあじさいの会は日の出の森の谷戸沢処分場の埋め立てが終了し、二ツ塚処分場が開設された1998年に焼却灰の飛散の実態解明を契機に、「自らの命・健康・環境は、自ら守る」市民による環境調査の会として発足し、1.地域の生活者・市民の視点からの環境問題 2.研究者・専門家の指導、協力による科学的な調査活動3.調査活動の内容や結果及び成果の公開・公表するとし、第1次活動（1998年～2002年）の調査結果を冊子「たまあじさいは見ていた」にまとめました。第2次活動（2003年～2014年）はエコセメント化施設の影響調査。施設操業前の周辺環境を植物調査、野鳥調査、水生昆虫調査、気象調査、定点の常時観測、土壌調査、雨水調査をし、施設操業後は2011年の原発事故以降、放射線量調査空間線量調査、疫学調査を学校保健統計・人口動態調査を分析し、植物調査、リネン布による線量の調査も加えて、第2次活動の成果を「たまあじさいは見ていたII」をまとめました。2014年からは、エコセメント化施設周辺放射能調査、日の出処分場周辺水質一斉調査、多摩川放射能汚染一斉調査、田村バイオマスからの放射能汚染調査、地域住民運動への支援活動と広がってます。この27年間の調査活動は、①市民が事実を把握することの必要性が、②ごみ公害の抑止となり、③科学的な調査による説得力、④事業者に与える緊張感をもたらすこと。当会の調査活動が市民運動であることを「宮本賞」に評価されたと思います。「たまあじさいの会」は三多摩25市1町400余万人のゴミの副産物ですが、この活動は新しい時代にUPCYCLEされて行かねばなりません。